

## 「イノベーション探究Ⅰ」～地域再発見プログラム～第17回

### 1. 実施日

令和4年2月19日（土）1・2限

### 2. 場所

3棟331教室、332教室

### 3. 対象

グローバル科1年生（6・7組）

### 4. 講師

京都橘大学経済学部 准教授 乾 明紀 先生

ティーチング・アシスタント（卒業生）5名

鳥羽高等学校 教諭 6組 山中 脩平 中村 啓介

7組 金本 瑞穂 矢野 和久

### 5. 内容

#### 「イノベーション探究Ⅰ」課題探究発表会

2教室に分かれて、一年間の探究の成果を発表した。各クラス9チームを均等に2つに分け、クラス間の交流をとることができるように発表グループを編成した（表1）。講師の大学の先生やティーチング・アシスタントの卒業生には来校していただき、対面で指導・助言をいただく予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、オンラインで視聴いただきコメントができるように予定を変更した。

各チームにつき、7分で発表して、2分間の質疑応答時間をとった。発表時はプレゼンタイマー（iPadのアプリ）を用いて、5分で1鈴、6分で2鈴、7分で3鈴を発表者に知らせることにした。

外部講師の方にオンラインで発表をしていただく教室の環境については、ZOOMを利用した。メインルームでのセッションで講師紹介や、講評をいただくようにした。各教室での発表時は、ブレイクアウトルームを2部屋作成し、各教室の様子をiPadで撮影したものを視聴できるようにした（図1）。

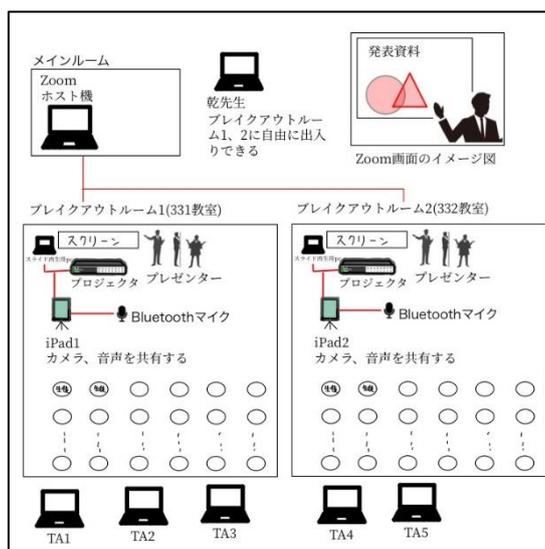


図1 オンライン視聴環境の設定図

表1 発表会進行表

331教室 (山中・中村)				332教室 (金本・矢野)			
助言者 乾明紀様、TA 3名				助言者 乾明紀様、TA 2名			
全体進行：山中 タイムキーパー：山中 遠隔：中村				全体進行：金本 タイムキーパー：金本 遠隔：矢野			
時刻	発表チーム	内容	発表タイトル	時刻	発表チーム	内容	発表タイトル
8:30	予鈴	機器・発表準備		8:30	予鈴	機器・発表準備	
8:35	チャイム			8:35	チャイム		
8:35		開会・助言者紹介 (山中)		8:35		開会・助言者紹介 (金本)	
8:40 ~ 8:47	発表 7組5班	写真スポットがその周辺に与えた影響 ～嵐山から学ぶ京都のコロナ危機からの 脱出～		8:40 ~ 8:47	発表 6組4班	伝統継承の新たなアイデア ～にしんそばを教え！～	
8:47 ~ 8:50	質疑応答 (6組9班)・評価			8:47 ~ 8:50	質疑応答 (6組5班)・評価		
8:50 ~ 8:57	発表 6組6班	観光客数の増加を見込んだ新しい町お こしのカタチ～最「恐」の京都観光、 お化け屋敷を用いて～		8:50 ~ 8:57	発表 7組2班	京土産を形作る八つ橋の解析 ～自称本家の新証問題～	
8:57 ~ 9:00	質疑応答 (7組5班)・評価			8:57 ~ 9:00	質疑応答 (6組4班)・評価		
9:00 ~ 9:07	発表 7組7班	鳥羽高校の生徒の主体性構築 ～鳥羽 高校を活かすために～		9:00 ~ 9:07	発表 6組2班	京都市内のハラル食の飲食店の分布 に関する調査	
9:07 ~ 9:10	質疑応答 (6組6班)・評価			9:07 ~ 9:10	質疑応答 (7組2班)・評価		
9:10 ~ 9:17	発表 6組1班	文房具店を活性化させるために ～山田屋商店を事例として～		9:10 ~ 9:17	発表 7組3班	新しい京都のお土産の形を考える ～年代別のアンケートとおたへ本舗へ のインタビュより～	
9:17 ~ 9:20	質疑応答 (7組7班)・評価			9:17 ~ 9:20	質疑応答 (6組2班)・評価		
9:20 ~ 9:27	発表 7組6班	京都のランタン祭りの知名度を上げる ための一方案		9:20 ~ 9:27	発表 6組3班	縦横開東～高校生と和菓子の共存～	
9:27 ~ 9:30	質疑応答 (6組1班)・評価			9:27 ~ 9:30	質疑応答 (7組3班)・評価		
9:30 ~ 9:37	発表 6組7班	ギネス世界記録と町おこしのつながり ～挑戦して街を活性化させた地域の事 例をもとに～		9:30 ~ 9:37	発表 7組1班	日本人が満足できる京都観光 ～イメージとリアル～	
9:37 ~ 9:40	質疑応答 (7組6班)・評価			9:37 ~ 9:40	質疑応答 (6組3班)・評価		
9:40 ~ 9:47	発表 7組9班	京都の認知度を上げるためのゲームの 考案		9:40 ~ 9:47	発表 6組8班	人々の食文化の変化の考察 ～京都のパンの文化の事例に基づいて ～	
9:47 ~ 9:50	質疑応答 (6組7班)・評価			9:47 ~ 9:50	質疑応答 (7組1班)・評価		
9:50 ~ 9:57	発表 7組8班	京都市の景観条例の問題と考察 ～厳し景観を「らしさ」に～		9:50 ~ 9:57	発表 7組4班	時代と共に変化する抹茶の在り方、日 本での抹茶文化の未来 ～宇治抹茶が果たす役割とは～	
9:57 ~ 10:00	質疑応答 (7組9班)・評価			9:57 ~ 10:00	質疑応答 (6組8班)・評価		
10:00 ~ 10:07	発表 6組9班	文化遺産の防災の今までとこれから ～被害から生まれた対策と高校生の防 災意識調査 in 京都市～		10:00 ~ 10:07	発表 6組5班	京野菜の需要と供給に関する調査～伏 見区のくわいと南区の金時人参を例に ～	
10:07 ~ 10:10	質疑応答 (7組8班)・評価			10:07 ~ 10:10	質疑応答 (7組4班)・評価		
10:10 ~ 10:17		ティーチング・アシスタント講評		10:10 ~ 10:17		ティーチング・アシスタント講評	
10:17 ~ 10:20				10:17 ~ 10:20			
10:20 ~ 10:30		助言者全体講評		10:20 ~ 10:30		助言者全体講評	

6. 学び

他チームの探究の動機や問いの立て方、問いへのアプローチの方法など聞くことで探究に対する見方・考え方を学んだ。また、質疑応答時の質問を考えることは、批判的思考力を向上させる機会になった。

7. 次回への課題

様式「研究計画書」を今回はメモ程度の記述ですませてしまった。それゆえ、中間発表時やスライド資料作成時にも、研究の目的明らかでないチームがあった。探究の目的が明確になった段階で発表資料を作成するようにしておく。もちろん、探究の目的や問いは、探究を進める過程で変化することもあるが、研究計画を立てる段階で学習者に言語化させることの重要性を再確認した。

8. 授業の振り返り

発表会が1月29日から2月19日に延期になったこともあり、各チームは考察を深めたり、具体的な提案を立案したり、企業に助言をいただく時間を得た。その結果、探究の成果の水準を1つ上げることができた。イノベーション探究Iの最後の授業に発表会を行うとなると、発表を振り返ることができないと思われたが、学校設定科目ソーシャル・インテリジェンスと連携を行うことで、発表を振り返ることができた。探究チームの探究のペースを考えると2月期の発表が適切であると考えてるので、この形を継続したい。